

俳優 田村正和 活動期間 1961-2021 身長 172cm 配偶者なし既婚()



生年月日 1943年8月1日 没年月 2021年4月3日 (77才)

出生地: 京都市右京区太秦 父: 坂東妻三郎 兄: 田村高廣 弟: 田村亮 育ち: 東京都世田谷 死亡地: 東京都港区

アルマーニの服を好んで着用、休日でも運動のために自転車に乗ったり、毎日30 - 60分ほど散歩をする以外は^L、ほとんど外出することはなく、家で部屋にこもり音楽を聴いたり、酒を飲んで過ごすことが多く、専属の美容師を自宅に呼んでいたが、自らサーキットまでF1観戦に赴くなど、かなりのカーマニアでもあった。また緑（自然）が好きで、散歩は自宅近くの緑地公園までのルートが日課であった。軽井沢の別荘にもよく赴いていたという

- 同期の俳優岡崎二郎によると若いころはジェームズ・ディーンに憧れを抱いていたという。好きな俳優としてはマーロン・ブランド。
- 趣味はゴルフ、音楽鑑賞、読書（時代小説を好んで読んでいて、織田信長を演じてみたいと度々語っていた、映画鑑賞（ロバート・デ・ニーロの出演作品を好み、作品を借りてきてもらったりしていた。また1970年代より読売ジャイアンツファンであったことでも知られ（1976年当時好きな選手はデービー・ジョンソンと答えていた、2016年にテレビ朝日のドラマ制作記者会見に出席した際には進行役を務めた同局のアナウンサー・下平さやかの方が長野久義（当時：巨人、現：広島東洋カープ）であることを知った上で前年（2015年）に不振だった長野を激励する言葉を発し、下平が「夫に伝えておきます」と田村に応じる場面もあった
- 『眠狂四郎』の作者・柴田錬三郎とは、柴田が原作のホラー時代劇『怪談残酷物語』で柴田作品に初めて出演、その後田村が『岡っ引どぶ』出演時に、その番組を見ていた柴田が田村の着流しや佇まいを気に入り、撮影現場を訪れた柴田と初めて直に会って以降柴田は、田村を息子の様に可愛がり、正和の端正な佇まいや役者としての姿勢を極めて高く評価し、まるで親子の様に家族ぐるみの付き合いであった、柴田の意向により『眠狂四郎（舞台版）』の主役として抜擢。テレビ版の製作にあたって、狂四郎役を演じるのが田村ならばと映像化への許可を出し、出演にあたって柴田は田村

に無双正宗を贈った。田村は柴田の葬儀で知らずに泣きじゃくっていたこと、柴田を優しく怖い人、そして子供の様に純粋な心の持ち主であったと回想した^[107]。なお柴田は三度、『眠狂四郎』に特別出演をした。また田村を最高の眠狂四郎役者であると称賛した。柴田の実娘によると「ともに頑固で非社会的なところが似ている、柴田が自分の若い日を田村の中に見たのではないかと。」話していた。また田村が『眠狂四郎THE FINAL』の放送後に柴田の娘に送った手紙には、作品が上手くいかなかった事への謝罪と共に、「おそらくもう仕事はこれが最後になると思う」と記されていたという。

- 芸術家の横尾忠則とは『眠狂四郎』の舞台美術を横尾が担当して以来の知り合いで、またご近所でもあったことから、散歩中によく出くわし会話をしたという、また横尾は『話の特集』1976年8月号の表紙の田村のイラストを描いたこともあった。
- かつて松竹を共に背負う事を期待された竹脇無我の死は相当ショックであった様で、2013年2月8日の『徹子の部屋』への出演時、声を詰まらせながら竹脇のエピソードを話している。
- 『カミさんの悪口』で共演して以来、田村と多く共演している橋爪功は、田村が大変好きであると語り、田村は自分自身の商品としての価値をよくわかまえている人物であると評した。田村のマネージャーから田村の出演作への出演を頼まれると断ることが出来ず、田村が出演するからという理由だけで出演を決めると語っていた。
- 父である阪東妻三郎と子役時代に共演経験がある津川雅彦とは、俳優デビュー作『旗本愚連隊』で共演その後も多くの作品での共演、田村の遺作となった2018年放送の『眠狂四郎 The Final』でも共演した。
- 同じく時代劇スターを父親にもつ北大路欣也とは幼少の頃からの知り合いで、2010年、『忠臣蔵〜その男、大石内蔵助』で初共演した際、父親にもう少し長く生きていて欲しかった、北大路欣也が羨ましいと語った。

主な作品 冬の旅・眠狂四郎/運命峠・鳴門秘帖・若様侍捕物帳・乾いて候・夏に恋する女たち
うちの子にかぎって・妻たちの危険な関係・ニューヨーク恋物語・パパとなっちゃん
カミさんの悪口・古畑仁三郎・総理と呼ばないで・協奏曲・告発-国選弁護人など
哀悼 安らかに